

銀十枚ヅ、同キ醫師法橋玄清ニ御裕五ヲ賜フ、

一同日ニ竹内御門跡江白銀千枚ヲ遣ハサル、同キ家來七人江銀十枚ヅ、同キ醫師眞瀨壽元ニ

御裕五ヲ賜フ、右三門主ヘノ上使、酒井雅樂頭並ニ吉良上野介ヲ以テ遣ハサル、彼院家家來

ヘノ面々ヘハ、上使ノ次デニ下サル略○中

一御臺所ヨリ、三門跡ヘ時服二十ヅ、ヲ進ゼラル、且又轉法輪右府江時服十、中御門大納言、菊亭

大納言ヘ時服六ヅ、烏丸中納言ヘ時服五、甘露寺宰相、久世中將ヘ時服四ヅ、櫛笥中將ヘ時

服四、土御門極薦ヘ時服三ヅ、御使岩瀨市兵衛ヲ以テ下サル、

〔泰平年表嗣記〕勅使並仁和寺宮參向

弘化二年九月廿五日、年頭爲御祝儀略○中仁和寺御門跡到著略○中同廿九日、仁和寺御門跡江御使

青山下野守を以、銀五百枚、綿三百把、又右大將様よりも銀二百枚、綿百把被遣之、猶又御逗留中爲

御尋、御使高家横瀬美濃守を以、色縹子二十反、御文臺並御硯箱、右大將様より御花活、昆布一箱被

遣之、

〔續太平年表九〕安政六年正月八日、松平遠江守代り相良越前守、當春參向之、公家衆御馳走人被仰

付候、

〔日次紀事正月〕當月阿蘭陀人自長崎港趣東武拜公方家、時自大坂入京師旅寓、而謁所司於茲、暫休

憩、則刷旅裝、或携所獻東武之珍禽奇獸、則洛人群聚而觀之、

〔長崎港草三〕紅毛江府拜禮、阿蘭陀平戸へ著船ノトキモ、年ゴトニ年頭ノ御禮トシテ、江府へ加

比且參勤イタシ、献上物品々ヲ捧ゲ、御役人方へ進物ヲ上ルニ、松浦家ヨリ檢使馬廻リノ侍一人、

徒歩一人、通詞以下差添、前年ノ冬平戸ヲ出立シ、翌年ノ正月拜禮ヲ勤ム、寛永十八年長崎へ來テ

ヨリ以來ハ、御奉行所ヨリ檢使トシテ、與力同心町使大小通詞以下數十人差添ラレ、前年ノ冬長

外國人參賀